

地中海クルージング最終日、〈Feel〉(デュフォー 525)は南仏を代表するリゾート地、サントロペに向かって疾走していた。締めくりにふさわしいダイナミックな帆走に、ハリー(筆者)は思わず涙してしまった。

スキッパーは大ベテランのフランス人ファビアン、乗員はセイジュさん、ジュリさん、コウキさん、マリコさん、そしてハリーとその妻

ゆうこの日本人6人。コートダジュールの自然と文化を堪能した1週間。太平洋を横断したり、南の島々を何カ月も巡ったりする長距離航海とはまた別の楽しみ方である。

筆者は60年近くヨットに親しんできたが、相模湾でのデイセーリングが大半。RYAデイスキッパーのトレーニングを受けて以来、海外クルージングに興味はあったが、な

かなか実行に移す機会がなかった。一方、妻のゆうこは、何事にも興味を持つアクティブな性格で、近年はニューカレドニアのグレートラグーンレガッタやクロアチアのベネトウ・ラリーに参加。そして、「一度は海外でもヨットに乗るべきよ」と、常々言われてきた。

そんな中、2014年にフランスでのカナルクルーズをご一緒した、セイジュさんとジュリ

南仏コートダジュールで 海外ヨットチャーター初体験

週末セーラーが伝えるお役立ちヒント

文・写真=ハリー岡野
report & photos by Harry Okano

海外ヨットチャーターの記事を目にすることは少なくないが、いざ行きたいと思っても、知らない海域ということもあって、どうしていいのかわからないことも多い。相模湾で長く週末を中心にセーリングを楽しんできた筆者は、2015年春に、フランスで人生初の海外ヨットチャーターを楽しんできた。今回は、クルージングの報告とともに、実際に経験してみて感じたヒントを、皆さんにお伝えしたい。普段の海域を離れて、気軽に海外へ出られるきっかけになれば幸いだ。

サントロペの南、ルヴァン島のすぐ西に浮かぶポールクロ島で。中央に見える艇が、今回チャーターした〈Feel〉(デュフォー 525)





ポールグリモー（グリモー港）に到着し、スキッパーのファビアン（左）と顔合わせ。ファビアンは長距離航海の経験も豊富で、知らない海域では非常に頼りになるスキッパーだ



チャーターヨット会社の事務所でいろいろの手続きを終え、艇の各部を詳細に説明してくれる。初日は夕刻に出航し、サントロペまで1時間程度のセーリングを楽しんだ



今回のクルージングでは、日本の代理店を通じて現地のチャーターヨット会社を利用。チャーターベースのポールグリモーは、ニース空港からタクシーで1時間程度で行ける

さんから、地中海でのヨットチャーターのお誘いを受け、絶好の機会とご一緒させていただくことにした。葉山のヨット乗りのコウキさんとマリコさんにもお声掛けしたところ、二つ返事で参加表明があり、あっという間にメンバーは決まった。

■ 海外ヨットチャーターの魅力

海外でのヨットチャーターには、観光ツアーとは異なる「お仕着せでない旅程」、知らない港町の訪問、地元の人や各国のセーラーとの交流などの魅力があるが、ヨット乗りとしては、何といても海外の海域を自由にクルージングすることが、一番の魅力だろう。

気に入った入江があれば、そこで1日を過ごす。港町のきれいな町並みを、自転車を借りて走り回る。近くのワインセラーまで足を延ばして、試飲を楽しむ。その土地の名物レストランで地の食材の料理を味わうなど、楽しみ方はいろいろ。一方で、何に出会うか分からない毎日だから、「予定は未定」とサプライズを楽しむことも、ある意味では魅力である。

海外でのヨットチャーターと聞くと、敷居が高く感じるかもしれないが、短期間のチャーターなら、週末を挟んで10日ぐらい休みがあれば、十分に実現可能だ。筆者も現役のサラリーマンだし、40～50歳代の働き盛りの人にもできるだろう。

■ 1週間のクルージング

今回の私たちの行程を説明しよう。2015年5月26日（火）未明に羽田を出発し、ドバイ経由で同日の午後、ニース空港に到着。空港からタクシーでチャーター艇の母港、ポールグリモー（グリモー港）へ向かい、ここで乗船した。夕方、サントロペ港まで約1時間の航海を楽しんだ後で夕食を取り、サントロペ港外の入江にアンカリングで停泊した。翌日から3日間、コートダジュールの沿岸を西に進み、ポールクロ島、サナリ港、カシ港に停泊。復路の3日間は、ノートルダム海岸、ポルクロール港に停泊し、ポールグリモーで最後の夜を過ごした。6月2日（火）朝に下船した後は、各自の旅程でフランス国内を観光して日本に戻った。

クルージング中の出来事については、紙幅の関係で、項目だけ挙げる。詳細は、ハリーのホームページ(<http://homepage1.nifty.com/okharry>)をご覧ください。

● ポールクロ島の入江から見る夕日……



さすがマリンレジャーの盛んな地中海。世界中のセレブたちもここに集まってくる。自家用ヘリを搭載した巨大なメガヨットから、滑り台で海に入って遊んでいる

昼間は観光船が入り出りしたりしてにぎやかだったが、夜には静かになった。ランタンを点けたコクピットで、極上の時間を過ごした。

● 軍港の街トゥーロン^①の南海上で、フランス海軍実弾訓練……ファビアンから「弾が飛んできたら伏せるように」と冗談で言われていたが、本物の大砲と機関銃の音が聞こえたときは本当に驚いた。

● サナリの街での朝市……ファビアンの提案で、小さな港町サナリに停泊。翌朝の朝市では、言葉がうまく通じなくても、店の人とおしゃべりしながら品定めをする買い物は楽しかった。

● 水上飛行機による山火事消火訓練飛行……2機の水上飛行機が、何回も離着水を繰り返しては、汲み上げた水を撒く練習をしていた。

● ラシオタにあるメガヨット造船所……建造中の艇が所狭しと置いてある。100ft以上ある大型艇が、プラスチックで



サントロペの町並み。艇を着けた港の周りに町が広がっていて、なんともいい雰囲気。フネや海が身近にある暮らしがそこにある



ゴツゴツした白い断崖絶壁が続くカランク。入り組んだ深い入江まで入っていったのは、ファビアン腕があってこそ。地球のスケールの大きさを覚える体験となった

ラッピングされて出荷を待っていた。世界が違ふと感じた。

●**フィヨルドのような深い入江、カランク**……透き通った紺碧の海が、白い断崖絶壁に囲まれている。自分たちだけではこんなには近づけなかっただろうが、間近で見上げる断崖に地球の大きさを感じた。

●**イルカの群れとの遭遇**……10頭ほどのイルカの群れが突然現れ、しばらく並走して遊んでくれた。

●**ノートルダム海岸**……ポロクロール島

の北側に位置する入江。雰囲気抜群で、水が澄んでいてあまりにも気持ちの良い場所だったので、急きょ予定を変えて、日がな一日過ごすことにした。

■ オススメはスキッパー付き

今回、私たちはスキッパー付きでヨットをチャーターした。海外の短期クルージングでは、安全面はもちろん、いろいろな利点が多い。

①知らない海域を海図頼りで航海するのは、何らかの危険がある。その海域をよく知っているスキッパーがいれば安心だ。

②その日の経路地や目的地は、全体スケジュールと当日の海象を踏まえて、スキッパーと相談して決める。ある意味、サプライズでもあり、それも楽しい。

③スキッパーは、基本的に艇のことは何でも一人でできる。係留、セールの揚げ下ろし、艇の片づけや掃除もする。こちらはお客なので、航海中は何もしなくていい。艇の借り受けや返却も楽だ。

④入港手続きなどは、スキッパーがやってくれるから、着岸後すぐに上陸して街に繰り出せる。

⑤裏技かもしれないが、バースが混んでいて係留できないようなときは、岸壁が空いたタイミングで、タッチアンドゴーで乗下船した。われわれが陸上で遊んでいる間は港外で待機していて、連絡をすれば迎えに来てくれた。

⑥天気予報、臨時的航行制限、自然保護地区などでの速度やアンカリング制限といったローカル情報は、現地語が堪能で、インターネットや無線を使いこなせないと、タイムリーに収集できない。スキッパーは、常にこれらの情報を収集している。

*

もちろん、われわれヨット乗りは操船やナビゲーションなどもやりたいところ。希望すれば、基本的に何でもやらせてくれるが、スキッパーは、利用客の技量や経験を、何げない動作や会話からすぐ見極めてしまうようだ。できそうなことは黙って見ている一方で、分



フランスの海には、世界共通の一般的な航路標識以外に、安全な水域を示すブイや標識があって、非常に便利。特に入港するときなどは重宝した



南仏の海岸線には、無数の入江があり、ヨットが係留するためのムアリングブイが設置されているところも多い。アンカーを打つ手間も不要で、大変便利に思った



テンドーを下ろして、みんなで陸地へ向かう。こういうときにも、スキッパーはフネに残っていてくれるので、陸上の観光や食事でも存分に楽しむことができた



からなそうなことは親切丁寧に教えてくれる。

旅の後半、ファビアンがボルクロール港への着岸を筆者に任せてくれた。岸壁に対して直角にインチ・バイ・インチでスターンを近づける、RYAトレーニングでの練習の成果を、初めて実践できた。そうはいっても、スキッパーは、アンカリング場所の選定など、プロとしてのこだわりを持つ部分もあるから、尊重しないといけない。

このあたりの心得としては、出すぎず、知ったかぶりをせず、郷に入っては郷に従え、が、良い関係を築くコツではないだろうか。操船の基本は同じなので、会話の糸口にはなるが、細かなところでやり方に違いがある。教えを乞う姿勢がいいと思う。

■ 計画を立てる時のヒント

メンバー選択と日程の調整

誰と行くか。これが結構難しい。海外ヨットチャーターをやってみたい人は、行きたい場所、やりたいこと、クルージングのスタイルなど、それぞれの思いと期待を持っている。誰かと一緒にやるならば、ある程度の寛容さと旺盛な好奇心を持って、何でも受け入れてみようという気持ちで、コミュニケーションを取ることが大切だと思う。

一方、日程の調整も難しい。全員が参加できる日程の調整と、チャーター艇の空きスケジュールを問い合わせることを、ほぼ同時にやらないといけない。まず大体の時期を決めて、艇が空いている期間を先に押さえてから、各自が日程を調整し、交通機関を手配し、スタート時刻までに乗艇場所に集合する方法が手取り早いだろう。本気で海外ヨットクルージングをやりたいと思っていれば、自分のスケジュールは何とか調整できるはずだ。

計画立案の例

私たちの場合、日程が決まった後に、どんなクルージングがしたいかを話し合った。コルシカ島まで行く、沿岸を東、あるいは西へ向かうという三つの希望が出た。

まず、コルシカ島までは距離があるので、航海の時間が長くなり、上陸場所と時間が限られる。「長時間」のクルージングは地中海でも相模湾でも同じ、ということから却下。沿岸を東に向かうコースは、大きな港町は回れるが、これといった魅力がなく、これも却下。西に向かうコースは、島あり、小さな港町あり、カラंक(断崖絶壁の海岸



ポルクロール島の入江にアンカリングし、夕暮れの時間を船上で楽しむ。テーブルの上のランタンに火をともし、ぜいたくなひとときを満喫した

線)あり、ビーチありと、変化が多そう。これを第一希望にしようと意見が一致し、どこに寄るか、現地で天候を見ながらスキッパーと一緒に考えることにした。短期のクルージングでは、この程度のいいかげんさが、かえっていいようだ。

艇の手配と乗下船

今回のように日本の代理店に相談するのが一番だが、外国語が堪能で、現地の予備知識があれば、現地のチャーター会社へ直接申し込むのも、いい経験になる。クルージングしたい内容に合わせて日程を

■ 週末セーラーの夫を連れ出して海外へ

かつて、ヨット乗りの妻としての役目は、メンバーへの食事の用意だった。何人来るか分からない食事の用意は、いつも気の重いもので、次第にヨットから遠ざかっていった。

夫が自艇を所有してからは、気兼ねなく乗れるようになり、足しげく通うようになると友人も増え、ヨットの世界が私なりに広がっていった。そんななか、ニューカレドニアでチャーターヨットに乗る話をもらった。若い女性の友人が、世界中でヨットに乗っている話をうらやましく聞いていたとき

だった。その話に飛び乗った。一人での行動は、とても楽だから……。

海外のヨット事情を垣間見て、日本では味わえないスケールの大きさを感じて帰ってきた。夫にとっては、週末のデイセーリングも楽しいに違いないが、ほんの少し長い休みを取りさえすれば、スケールの違う世界を見られるんだ! その思いがどんどん強くなっていった。

しかし、夫の海外チャーターはなかなか実現せず、またまた私にチャンスが。ヨットのスキルを上げるためのチャーター、ISPAのクロアチアクルーズを見つけたのだ。突然行きたくなったので、やはり一人で行くことに。ヨーロッパには、生活に密着したヨットライフがあった。なんで、海に囲まれている日本に、こういう文化がないのか? 不思議な感覚だった。

今回、やっと夫を海外クルーズに誘うことができた。1週間のクルーズを終え、サントロペに向かうとき、すばらしい風が吹いてきた。そのときの感激は忘れられない。いつも相模湾でセーリングしている夫を、大海に誘い出すことができた。それが、彼にとって最高のセーリングだったことは間違いない。夫を海外チャーターに誘い出せたことは、本当によかったと感じる。そんな私、今年はカナダへヨット遊学に行くつもりだ。(文=おかのうちこ)





クルージング3日目に、ファビアンにすすめられて入ったサナリ港。小さな港には、色とりどりの地元のフネが泊まっている。こんな港も、地元のスキッパーだからこぞ知っている場所



地中海の港やマリナでは、船尾を陸に向けた艦(とも)着けが基本だ。日本では一般的ではないが、すぐに慣れる。潮の干満差がほとんどないので、乗り降りも簡単



サナリ港に停泊した翌朝、港町では朝市が開催されていた。フランス人の食卓を垣間見ることができたようで、あれこれ見て回るだけでも楽しかった

決めるが、基本的には、艇を夕方借り受けて翌週の同じ曜日の朝に返すパターンようだ。

乗船時は、契約手続き、デポジットの支払いの後、艇の説明を受け、艇体の確認をする。スキッパー付きチャーターの場合は艇の準備は整っているので、荷物と食材を運び込んでしまえば、すぐに出航できる。

せっかく異国の地を訪ねるので、クルージング以外の旅も、前後に入れたい。また、乗船日前に現地入りして、周辺の様子を見ておいたり、事務所で天候や海域の最新情報を聞いておくのもよい。航空機やホテルの手配は、インターネット予約が便利だ。

■ 船上生活のヒント

持ち物

場所にもよるが、寒さや雨の対策もそれなりにしておきたい。着替えは、洗濯を前提に最小限に。女性の場合は、外食する場合のいでたちも気にするのでは。

安全備品は艇に備えてある。また、リゾート地域の沿岸では、航海中も含め、ほぼインターネットに接続できるようだ。スマートフォンやタブレットのチャートアプリがあれば、ハンディーGPSも不要だろう。

船内生活

例えば4ベッドルームの艇では、参加メンバーを2人×3組として、1部屋をスキッパーに割り当てる。スキッパーに気持ちよく仕事をしてもらうためには、これは考慮しておくべきだと感じた。シングルで参加する

人にも、1部屋を割り当てるのがいいと思う。

地中海は空気が乾いている。シャワーを使っても、1～2時間で壁の水滴は乾いてしまう。洗濯したTシャツや下着、タオルなども数時間でカラカラだ。一方で、節電と節水は常識として心得ておくべきだろう。

食事

船内食と外食とは、そのときどきで選べばいい。当たり前だが、人里離れた入江にアンカリングする場合は船内食になる。船内食は自分たちで支度と片づけをし、スキッパーと一緒に同じものを食べる。今回は、日本から食材は一切持ち込まず、全て現地調達で地場の材料や味を楽しんだ。

外食の場合は、スキッパーは留守番となるが、誕生日など特別なときは誘って、一緒にレストランに行くといいだろう。

ハーバー

出入港の際は、常に商業船が優先。出入港や係留場所などは、ハーバー事務所が管理している。「入港前に電話などで予約」、「入港時はVHFで係留場所の指示を受ける」、「係留後は、船検証などを持って手続きをする」など、やることは日本とはほぼ同じだ。

入江のムアリングブイも有料と考えていい。夕方になると、テンダーで係員がやって来て料金を徴収していく。



クルージング中は、景色を楽しんだり、誰かとおしゃべりしたり、一人で本を読んだりしたりと、おのおのが自由に時間を過ごす



今回のクルージングに参加した女性陣、左からマリコさん、筆者の妻のゆうこ、ジュリさん。陸上の見どころや食事など、普段ヨットには乗らない女性たちにも、地中海はおすすめ

外食ばかりではなく、地元のスーパーで食材を買って、船上で調理して食べるのも楽しい。今回はあえて日本から食材を持っていわず、地のものを楽しんだ



ゴミは、ハーバー内の分別ゴミ箱に捨てられる。大概のハーバーにはビジター用のシャワーがあるが、コインランドリーはあまり期待しないほうがいい。むしろ手で洗濯して艇上に干しておけば、半日もあれば乾く。

航行

地中海では、公式な航路標識とは別に、小さなブイが航路や危険地帯を示している。また、地中海は干満差がほとんどないので、岸壁はどこもちょうどいい高さだ。入江では、引き波を立てずに最徐行で走るマナーが徹底されている。

必要経費と支払い

今回は、艇のチャーターとスキッパー費用などで約180万円(7泊8日)、これを6人で割り勘にして事前に支払った。このほか、係留費や燃料代、皆で一緒に食べた外食費や食材の購入費などは、1人約350ユーロだった。買い物など個人的な支払いは、ほとんどカード払いが可能だ。

その他

ランチのためにアンカリングすると、ヌーディストビーチの前だったりする。陸ではそれなりに隔てられているのだろうが、海からは丸見えだ。とはいっても、双眼鏡で興味深くのぞくのはマナー違反。

初めてのフランスで

コミュニケーションについては、スキッパーや、外国人観光客を迎えるような施設では、英語が使える。フランス語は、単語をいくつか覚えておけば、特に困らない。

昨今はテロが脅威だが、これはクルージングに限ったことではない。寄港した港やマリナーは、どこも観光地だったが、治安に不安はなかった。パリの様な大都会の観光地とは、だいぶ様相が違う。マリナーにも門扉などもなく、誰でも出入りが自由な状態だった。

海洋先進国でのクルージングは、日本で



クルージングの最終日、ファビアンと6人のメンバーで別れを惜しむ。3カップルが、それぞれ個室があるので、リラックスして海の旅を楽しむことができた

ファビアンからのメッセージ

今回のスキッパー、ファビアン・ダリユーは、長距離航海を含む豊富な経験を持つセーラーだ。帰国後、彼から届いたメッセージの一部を紹介する。

*

私にとって最も重要なことは、ゲストをハッピーにし、信頼を得ることだ。つまり、予定されたプログラムを、安全面でも楽しさの面でも最高のものとする。私の役割とは、私がいて良かったと思ってもらうことと、皆を気楽な気分させることにある。セーリングクルーズは、ほとんどのゲストにとって極めて特別なものだろうから、それを忘れ難いものにする手伝いをしたい。

天候もゲストも完璧で、多くの楽しい時間を一緒に過ごすことができたときは、このクルーズが終わらなければいいのと思う。一方で、出航1日目にして、金を作り損ねた錬金術師のような気分になることもある。ゲストが最初から目的を全く間違えていて、クルージングというバカンスを選ぶべきでなかったときだ。想像とは違うヨット生活、グループ内でトラブルを抱え、セーリングも楽しめず、天候がすぐれず、船酔いする者も出てくる。そして、こんなときに限って技術的問題が次から次へと起きる! まさに、マフィーの法則だ!

今回、私にとって初めての日本人ゲストを迎えた。特に一緒にいて楽しかったのは、ゲストたちが豊かな好奇心を持っていて、



いろいろなことに興味を示したことだった。船上の雰囲気も大変和やかで、各自が自分の役割をすぐに見つけ、心底くつろいでいる様子だった。ただ一つ後悔することがあるとすれば、私が日本語を話せなかったことくらいだ。ゲストたちの私に対する信頼や、気配り、そして親切には心から感謝している。

今後の日本人ゲストには特にアドバイスはないが、フレンチリヴィエラでのセーリングを楽しんでもらえるならば、誰でも大歓迎だ。

●今回のヨットチャーターに関する問い合わせ

(有) アドバンティス(担当/矢部)

TEL: 03-5314-5424

<http://www.advantis-jp.net/>

のクルージングとは全く趣が異なる。何と
いっても、遊びとしての海洋レジャーが広く
根付いており、受け入れ態勢もしっかりして
いる。マリナーに^{おもむき}紡かれた無数のヨット、商
業船との共存、あちこちの入江にあるムア
リングブイ、プレジャーボート用の航路標識に

ガイドブック……。

そんな環境を垣間見られる短期ヨット
チャーター、これから機会をつくって、いろ
んな海域に行ってみよう。比較的仕事
の自由が利くゆうこは、今度はカナダに行く
らしいが……。



サナリ港の夜景。大小さまざまなヨットやボートが、港にずらりと並んでいる。ヨットチャーターという方法なら、短期間であっても、新しいセーリングの楽しみ方を知ることができるはずだ